company newsletter

2 JAC RECYCLE JOURNAL

2020.02. February

株式会社ジェーエーシー

ドイツのリサイクル率が高い理由は、意外にシンプルだった。

日本では当たり前のようにある「学校の掃除の時間」ですが、世界的に見るととても珍しい文化だとよく言われます。「みんなのものをみんなで大切に」という教育がされているからこそ、公共の場所がきれいに維持されることにも繋がっている、と。しかし、そんな日本もリサイクル率ではまだまだ後進国と言えるかもしれません。その高いリサイクル率が注目されるドイツでは、小さい頃からのリサイクル教育が身を結んでいるのではないか、と話題になっています。

リサイクル率日本は19%、ドイツは65%

「Organisation for Economic Co-operation and Development」の調査によれば、**アメリカのリサイクル率は35%、日本はなんと19%なのだそう。**日本はゴミの分別も細かいし、資源回収もたくさんあるので、リサイクルも進んでいるのかと思いきや、先進国の中ではかなり低い数値なのです。一方の**ドイツはリサイクル率が65%**と、調査国の中ではダントツの数字を誇っています。いったいなぜ、これほどまでにリサイクル率が高いのでしょうか。

子供の頃からゴミの分別を徹底

ドイツでは、幼稚園に入る前から、ゴミの分別や再利用についてのしつけがされるのだそうです。地区によっては、**緑のバケツには生分解性の廃棄物、青いバケツにはダンボルや紙、その他のものは銀色のバケツ、**と色分けされているのだそう。

ドイツ人の中では、「分別しても、結局ゴミの行き着くところはいっしょなんじゃないの？」と疑問に思っている人もいるようですが、それでも彼らは分別を続けるのだそうです。なぜなら、そういうふうにやるのが当然だと思っているから。

3歳から、ずっと「リサイクル活動」を続ける7歳の少年（米・カリフォルニア州）

米・カリフォルニア州に住む7歳の男の子リヤンくんは、なんと3歳の頃から「リサイクルできるものを集めるために、お隣さんから空のレジ袋をもらえないかな？」と言ったそうリサイクル活動を続けているらしいのです。やがて、そのリヤンの地球のことをサステイナブルに考えている、という意志はどんどん広がり、賛同者で構成された地域彼の「サイクル・ライフワーク」、リヤンが三歳コミュニティまで出来上がりました。今では のときにリサイクルセンター を訪れたのがきっかけでした。「RYAN's Recycling」という名前で会社として立ち上げ、たくさんの顧客を その帰り道、彼は両親に 抱えているそうです。

編集部だより

今月より始まりましたジェーエーシーリサイクルジャーナル。私たちジェーエーシーグループは蔵王のリサイクル工場から北仙台の眞野屋までいろいろな顔があるグループ会社なのです！日頃の私くしたちの活動や今現在世の中で起こっている環境問題などを分かりやすく発信できたらと思っていますので、なが～い目でご覧下さいませ。